

24 飛驒の赤松が育てる ～森・人・伝統建築～

岐阜県立飛驒高山高等学校 2年 ○赤羽根 迅
○加藤 英聖
(資) 戸田材木店・セルバ 専務 戸田 昌志

1. 課題を取り上げた背景

現在は山が更新されること無く放置され、用途に関係なく切り倒され立派な木材でもバイオマスで焼却されているのが現状です。さらに、住宅様式の変化に伴い伝統建築の大工技術が減少し悪循環となります。そこで、この現状を改善し「森・人・伝統建築」のサイクルを取り戻すため、平成29年から飛驒のアカマツを通した「アカマツプロジェクト」を大阪の木材店や地元の森林団体と協力して取り組みました。

2. 取り組みの過程

平成29年1月に木材店や飛驒の森林団体の方々に事前学習を行っていただき、森と人との関わり、伝統や文化の継承、森林の管理・流通・利用について学びました。平成30年10月にアカマツの選木基準について教えていただき、12月に演習林での伐採から搬出までを行いました。令和元年の7月に大阪へ行き、ヒノキ人工林や木材製品市場、アカマツを使用した一般住宅の見学を行いました。12月に森林の管理方法や選木の方法を学び、昔ながらの木材の搬出方法(馬搬)を行い、森や人、動物の関わりについて学びました。



図1 事前学習会



図2 大阪研修

3. 実行結果

アカマツプロジェクトでは、森の管理・流通・利用を通し、大工や建築施主(個人)が求めている木材を知り、用途やニーズを知り、川下の価値観や木材に対してのこだわりを私達や川上側である方々と共有することができ、今後森林利用や木材の多様性を考え、時代の変化に対応できる森林づくりが大切だと分かりました。

(1) 事前学習

木材店の方から様々な木材の特性や利用について学び、特にアカマツについて詳しく学びました。また、普段は目にする事のない伐採に使う道具の使用方法についての学習をしました。

(2) 演習林での選木・伐採

アカマツの選木基準では、木材店や大工の方と共に住宅の用途、特に梁に向いている径級や曲がりなどに着目し1本1本選木しました。また、森林の恒続性なども検討しながら行いました。技術的な面ではチルホールなどを用いた安全な伐採方法を学習しました。

(3) 大阪研修(植林地見学、木材製品市場見学、大工技術体験等)

大阪のスギとヒノキ混植林を見学し飛驒の森林との違いを知ることができ、木材製品市場を見学し建築会社の作業場での加工技術の体験をしました。新築建築現場では天然乾燥や強度、曲がりのある地松にこだわり造られた住宅の見学をし、職人さんの技術や思いを知ることができました。

4. まとめ

(1) 木材店の方や大工の方の要求する木材を知る事ができました。今後、樹木や木材の特徴・質などを深く学ぶことが時代変化に柔軟に対応できる森づくりにつながります。

(2) 他地域の林業や川上から川下の木材の流通を知ることでエンドユーザーに生産者の思いを伝えながら、適地適木の原則に従い恒続する森林施業につなげていきたいです。